

令和 7 年度大阪府景観審議会

第 2 回公共事業アドバイス部会 会議要旨

開催日時：令和 7 年 12 月 16 日（火）11:30～12:30

出席委員：若本部会長、田中専門委員、船曳専門委員

【府営住宅外観デザインガイドラインについて】

< 1 全体計画に関して >

○部会長

事前調査の具体的な手法の前提として、何を見るか、周辺のまちがどんなまちかしっかり見ることが重要。地域の建物、ボリューム、敷地の大きさなどをよく見て、この府営住宅の敷地で何ができるかを考えることが大切。

○部会長

周辺の方が立ち寄ることもできるため、地域の財産だったような場所をオープンにするようなことも考えるなど、建て替えをする時に何か残さないといけないものがないかも考慮した方が良い。UR や公社などであれば、重要な緑地は残せないかという検討をすることが多いと思う。

○部会長

建物配置の考え方について、周辺に合わせて何ができるかをまず考える。一般の市街地に混ざっても公営住宅だとわからないように計画する。例えば民間の賃貸、分譲マンションなどのような配置計画を意識してみるとよい。狭小で周りに建物が建っているということは、沿道に沿って建物を建てざるを得ないので、できるだけ街に、建築物として景観に寄与するようなことを考えていったほうが良い。

○部会長

緑で貢献すること、広い敷地、オープンスペースで貢献することが難しいのであれば、景観的には建築物で寄与すると良い。ガイドラインのバルコニーの設え等をうまく使うことを考えられたら良いのかなと思う。

○部会長

過去の経験だが、コンクリート手摺をアルミ手摺に変えるとコスト削減にもつながるかもしれない。

○部会長

住棟配置で検討する際の視点場について、基本的には近・中景であれば、周辺の市街地との関係性をよく見ておけば、特定の視点場を設定しなくても大丈夫。遠景については、（特定の視点場が定められていない場合は）どこから見えるかを探すしかない。移動するものからの視点場、例えば鉄道からの景観も確認すると良い。高層中層別であれば、周辺との関係性をよく考えた方が良い。周辺が高層建築物である場合と低層建築物である場合とではデザインの考え方も変わってくる。

○専門委員

事前調査では、現状とめざす方向をはっきりと計画で出しておくといよい。

ただ、難しいのは府営住宅には建築物そのものだけでなく、府営住宅が位置する地区の性格を決める役割があるため、現状の課題、これからどんなまちづくりをしたいか、ということ都市計画分野と調整しておくことが大事。

○専門委員

ボリュームの考え方について、近くを歩くときに周辺からの視線を感じるようなところでは上からの視線を遮るように街路樹を植えたりする。植樹スペースがない場合には、圧迫感を感じない程度に建物の方の設えをつくらなければいけない。メルテンスの法則などを用いて、色彩や形状を気にならない位置で区切るなどによってボリューム感を調節したり、区切り位置を周辺のまちなみに合わせるといようなことをすると良い。高層や中層建築を設計する際の留意点にも関係してくるのではと思う。

○専門委員

近景から中景が変わるところの問題は、ベランダや窓の枠などにいる人が、こちらを見ているかが気になる点、手すりや窓枠が街並みを壊しているように見える点など。少し離れて中景から遠景になると、建物が一枚の板のように見せたり何枚かの板に分割して見せたりして、まち全体のつくり方との連続性を持たせることが必要になる。他の視点場から見て、ファサードの形状などで検討するとやりやすいと思う。ありとあらゆるところから検討すると難しいので、重要な視点場を決め、そこから今回の府営住宅はこういう形状にしたということを示すとよい。

○専門委員

事前調査において、周辺の建物のスケール感は重要であり、街路の幅員、緑の量、地形の高低差などの視覚的、空間的特性をまず整理する必要がある。周辺住民や通行者から土地がどのように見られていたのかについても把握する。現地の写真や動画等も含めて、今までの記録も整理する必要がある。

○専門委員

配置計画については、オープンスペースが広い場合はその抜け感や奥行き感など、その視線がどのように通るのかを、オープンスペースとその建物のボリュームの関係を踏まえて見ていくのが良いかなと思う。一方で、狭い敷地の場合は、建物が密になりすぎないようにボリュームを分節する、高さ関係や長さなど、外構計画との一体的な検討が必要。

○専門委員

視点場については、住民にとっては近景が一番身近なもの。しかし、その周辺住民にとっては、中景が重要になるので、そのあたりのバランスが重要。

遠景については、やはり上（モノレール等）からの景色は重要でもあるし、周辺の高層階に住んでいる人たちにとっては、夜景や夕日、花火が見えるなど、スカイライン（遠景における建物の上部ライン）との関係も重要である。

< 2 色彩計画に関して >

○専門委員

図面やパースとの竣工建物色のギャップを埋める工夫について、ギャップはどうしても出てしまう。パースと実際のカラーは絶対に合わない。塗料の色も、見本と合わないことがかなりある。そういったところを色彩専門の方と何度かやり取りをすることが、一番大事。色対色の関係が大事であるため、その色そのものではなく、他の周りの色との関係が重要。

○専門委員

地域性に応じた色について、その地区で伝統的に使われている石材や土の色をサンプルで取り、色見本を合わせる。そうすると、土の色や石のザラザラ感ともあったり合わなかったりするので、そういうものを組み合わせながら検討するのも良い。
ベースカラーにおすすめの色は、回答できない。

○専門委員

効果的なアクセントカラーの配置は、新しいまちだとありえる。例えば、市章やそのまちのモニュメントなどに使うと効果的。部分的に効果的なアクセントカラーをわずかに置くだけで大きなインパクトがある。広い面積を塗るよりも効果が発揮される。

○専門委員

色彩計画に関して、パースは実際の仕上がりとは印象が異なりやすい。実際のサンプルを実物大に近い形で見ることができると最良ではあるが、実際には難しいと思う。建てられた時の色と、経年劣化した時の色は違うので、数年後はこうなるというような事例を写真等で見るのが良い。竣工当初はその場に馴染んでいなくても、2、3年経てばなんとなく風景

に馴染むということもあるので、そのあたりも踏まえて検討すると良い。

○専門委員

地域性に応じた色の考え方について、周りの建物に合わせるという視点ももちろん重要だが、景観の中で過度に突出しない、目立ちすぎるという選択をするのではなく、周辺環境との調和を妨げない色味を選択することが望ましい。広い面積で強いコントラストの色は避け、周辺環境とうまく馴染んでくれるような色を持ってくるのが無難である。

○専門委員

ベースカラーとアクセントカラーについて、低彩度で明度が落ち着いた色がよく選ばれると思うが、そこに少し明るめの色が入っていれば雰囲気的に明るくなるところもある。難しいと思うが、その周辺の環境や、空の色、そのあたりと比較しながらうまく、あまりにも暗い色ばかりではなく、少しそこに赤みがあるみたいなものも望ましい。

○専門委員

アクセントカラーでは、参考事例で開口部等にシックな色を用いると高級感が出ることもある。最近の民間の集合住宅は高級感が醸し出されているところもあるので、参考にすると良い。

○部会長

パスとのギャップを埋める工夫について、周辺の建物の色を調査すると良い。色んな色見本を作るのは難しいと思うので、採用したい色味の建物が近くにあれば、現地で確認して、色を調整していくことも考えられる。

○部会長

全体的な色味と違って見えるのが、舗装、床、緑の設えも重要。参考事例にもあったが、駐車場のアスファルトが建物の際まであり、舗装の色が強く、その印象に引っ張られてしまう。建物の立面で見える所だけでなく、床面も視覚に入るので、そのバランスも考えていただきたい。

○部会長

見えるところが背景になってほしいところなのか、主人公になってほしいのかということもよく考えられたら良いと思う。立面図で色を考えるというよりは、実際に見えるもので色を決めるということが大切。参考事例では、縞模様が良くとされているが、意外と既存住棟のシンプルな外壁の方が、緑が映えて良いかもしれない。

○部会長

生活者がどう活動されるかということも想像しながら計画していただきたい。エントランスなどはしっかりとデザインをしたことが伝わるようなアクセントカラーを入れたら良い。

○部会長

電気室や受水槽、ポンプ室など小さいものも綺麗に仕上げ、サインなどもセットでつくるとも景観を作る方法の一つ。

○部会長

色を決める時に、この集合住宅を建てることで地域の景観をどの方向に持っていきたいのかということが重要。単に合わせて調和させるという場合も多くあるが、これから土地利用が転換されるなど、地域を先導するような雰囲気をつくる必要があるならば、単に地域の色を持ってくれば良いということにならない可能性もある。景観上の地域全体での役割をしっかりと決めた上で、色も決めていただきたい。

< 3 事例関係 >

○部会長

大阪府の仕事を受注している設計事務所に、良い事例をその理由とセットで紹介してもらうことを積み重ねる、実際にそれを現地で確認し、職員が良いと思うものが好事例と決めていけば良い。

○専門委員

現地を観ることはとても大事。良い事例とは、子どもだけではなくお年寄りも散歩し、大勢が外に出ている。そういうところは形も良いし、色も良く見えるし、何よりも植栽がよく、駐車場も安全。そういうところに行って、どこが良いのかなと思いながら進めるのが、勉強になる。